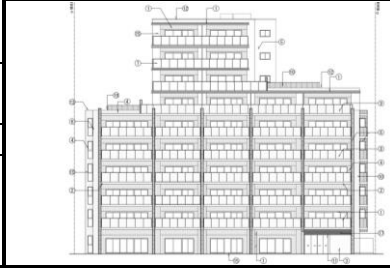


CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システム2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)緑区有松駅プロジェクト 新築工事	階数	地上10F
建設地	名古屋市緑区鳴海町字米塚25番6 他8筆	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域・近隣商業地域・準防火地域	平均居住人員	155 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2020年10月1日
敷地面積	1,472 m ²	作成者	
建築面積	524 m ²	確認日	2020年10月1日
延床面積	3,339 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.2 ★★★★★★☆☆☆☆

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	100%
③上記+②以外の	100%
④上記+オフサイト手法	100%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

音環境	3.2
温熱環境	3.8
光・視環境	3.3
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性	3.7
耐用性	2.9
対応性	2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

水資源	3.0
非再生材料の	3.2
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

地球温暖化	3.0
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
使用する建材に配慮し、快適な室内空間の創出を図るとともに、ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑えて地球温暖化の防止に努めるような計画とした。		
Q1 室内環境 外皮性能として、住居部分日本住宅性能表示5-1断熱など性能等級等級4を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするように努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー 適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めた。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない材料を使用するよう努めた。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場を設置して交通負荷抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)緑区有松駅プロジェクト 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.2
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.1	
2. 自然共生	評価点 = 3.2	
3. 循環型社会	評価点 = 3.1	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。